

町立病院新任医師の紹介

4月から小鹿野中央病院に着任された先生をご紹介します。

内科医長 瀬戸 那由太 先生

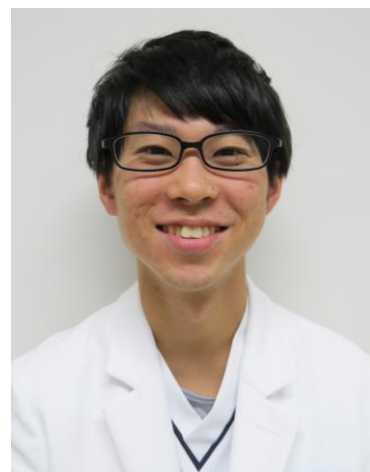
はじめまして。今年度より着任致しました瀬戸那由太(せと なゆた)と申します。昨年度1年は秩父市立病院に勤務させていただき、今年度で医師4年目になります。医学生時代に臨床実習という形でこの病院にお世話になったのですが、そこから早数年、こうして内科医となって赴任することができたことに感慨深く思います。

少し自己紹介させていただきます。私は栃木県今市市(現日光市)で生まれ、父の転勤で何回か引っ越しを繰り返していました。小学校3年の時に埼玉県さいたま市の岩槻にやってきたあとは、高校卒業後、浪人時代まで埼玉で過ごしました。その後栃木県にある自治医科大学を卒業し、再度埼玉に戻り医師として勤務させていただいております。学生時代は小学校から大学まで野球をしており、今では野球観戦が趣味です。

町立病院での勤務にあたりやっていきたいことが二つあります。一つは当院ならではの医療を学ばせていただくことです。急性期、地域包括、訪問診療、施

設、検診、緩和ケアなどのキーワードが織り混ざる、極めて多様な医療を提供している病院こそが当院です。地域のニーズに合わせてこういった判断で医療を展開していくのか、院長の内田先生をはじめ諸先生方やスタッフの皆様、そして地域住民の皆様から学ばせていただければと考えております。

もう一つは、町立病院の発展や町づくりのために貢献することです。医師の人数が少ない病院である分、一人ひとりにかかる責任も大きくはなりますがその分やり甲斐もある仕事だと思っています。医師として小鹿野のために何ができるのか、常に考えながら日々の業務に尽力していきたいと思っています。



内科医員 平田 まりの 先生

はじめまして、この度4月から町立小鹿野中央病院に配属となりました平田まりのと申します。

私は、「あなたにげんきをおくるまち」とうたう埼玉県上尾(あげお)市に生まれました。上尾の土地のものをたべて育ったからか、前向き・ポジティブ・おおらかな性格です。

大学は自治医科大学に入学し、その後さいたま赤十字病院で研修し、医師3年目の今年小鹿野に配属となりました。秩父地域は学生時代に宿泊したり観光したりすることもありましたが、引っ越しにより身近になるとまだまだ知らないことが多いことに気づきました。四季折々の秩父地域の自然、固有のお祭り文化、なによりおいしん坊なのでその土地の食文化をこれからじっくり味わっていききたいと思えます。皆様のおすすめをぜひ教えてください。

職業は医師ですというと、「何科ですか?」と聞かれることが多く、「内科」と答えております。

手術で病気を取って治す外科とは違い、身体の異常を生活の改善やお薬で治す科になります。内科の分野は細分化すると8科ありますが、そのどれかに特化するよりも地域で患うことの多い病気を優先的に広く精通するよう、日々研鑽を積んでいます。

小鹿野町立病院に赴任して、病院スタッフと町民の距離が近く、医療介護福祉の連携も密で、より患者様の生活によりそった医療が行われていると感じました。私も今後はその一員として、病気はもちろん希望や社会的背景も踏まえよりよく生活していく手助けができるよう尽力していきたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。



連休中の一次救急当番日のご案内

4月28日(日)・5月5日(日)

※ 連休中の外来は行いませんが、急に体調が悪くなった場合は電話でご相談ください。

電話 75-2332

25 《 今できること・・・ 》

新元号『令和』になって皆様いかがお過ごしですか？ 4月末からの10連休という長い休み、何をしようか悩んでいる人、そんなの関係なく仕事で忙しい人、何にもやることがない人、それぞれだと思います。

最近は大いぶん暖かくなり、新緑も輝いてきました。一方で、4月は雪の舞う寒い日もあったせいか、今年は桜を長く楽しむことができました。私はとくに病院前の桜が大好きです。朝のすっきりした青空に映える桜は見事でした。そんな桜を見るたび、人生のうちであと何回桜を見ることができのだろうか、なんて思ってしまいます。

さて、先日、高知のあやこさんからお便りがありました。母親ののぶえさんはいまだ入院中で、あやこさんは毎日お見舞いに行かれます。のぶえさんはほとんど話さないようですが、おしゃべり好きなあやこさんは一方的にのぶえさんに話しかけているとのこと。その便り、最後にこう結んでいました。「墓石に話しても何も言わないけど、今は表情がわかるからー。これが生きている幸せ！」いつものごとく、とてもポジティブなあやこさんです。

生き物には本能があります。種（しゅ）の保存の本能や自己保存の本能。しかし、人間だけにしか持ち合わせない本能があるそうです。それは「喜ばれるとうれしい」本能だとか。

いつまでも桜を見ることは出来ません。やることがないなんて嘆いているわけにもいきません。明日ではなく今日、幸せを感じつつ、誰かに喜んでもらえる人になれるといいですね。

今月も頑張りましょう。

院長 内田 望

☆町立病院の病棟が変わりました☆

広報おがの2月号でお知らせしたとおり、新年度に入り町立病院の病棟が変わりました。これまでは2階は一般病棟45床（急性期病床32+地域包括ケア病床13）、3階は療養病棟50床（医療療養病床Ⅱ30+介護療養病床20）で運用しておりましたが、4月からは、2階をすべて一般病床（急性期病床）、3階をすべて地域包括ケア病床としました。これは、国の地域医療構想、医療制度改革に伴い、2020年3月で医療療養病床Ⅱが、2024年には介護療養病床が廃止となるためです。

地域包括ケア病棟は、急性期の治療後リハビリ等を行って自宅（施設を含む）に帰ることを目的として設置されたもので、入院期間は最長で60日となります。従って、これまでの療養病棟のように長期間継続して入院することが出来なくなりますが、小鹿野町の地域包括ケアシステムにより在宅療養に

必要な医療と在宅介護サービスが連携して自宅等での生活を支援して参ります。急性期の治療後、施設入所をご希望の方には地域医療連携室がご相談に応じております。

なお、急性期の病気に関しましては、これまでどおり外来・一般病棟において治療に必要な専門医療機関と連携をとりながら、切れ目のない医療を提供して参ります。

当院はこの地域に必要とされる病院であり続けるために時流を読み、ニーズに適応していかなければなりません。多くの方の願いである「住み慣れた地域で最期まで自分らしく生きる」ことを支える医療機関としてより一層努力して参りますので、皆さまのご理解とご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

院長 内田 望